

令和元年6月4日現在

機関番号：11101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K20892

研究課題名(和文)1960～70年代の前衛芸術における「東北」表象の構築 寺山修司・土方巽を視座に

研究課題名(英文) Research on the construction of "Tohoku" representations in avant-garde art from the 1960's to the 70's

研究代表者

仁平 政人 (NIHEI, Masato)

弘前大学・教育学部・講師

研究者番号：20547393

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、寺山修司や土方巽をはじめとして、1960～70年代の前衛的な文学・芸術における「東北」表象を収集し、文化的・社会的な文脈との関係を視野に入れて、その特徴の分析を行った。また、寺山・土方の「東北」をめぐる言説・実践が、東北地方における文化行事にどのような影響をもたらしているのか、広く調査を行った。以上の成果を踏まえ、前衛芸術における「東北」表象と、その地方の文化への影響について、総合的な考察を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1960～70年代日本の前衛芸術については、関係者の証言や印象批評的な議論は多いものの、本格的な学術的研究は限定的なものにとどまってきた。本研究は、「東北」表象という視座のもと、当時の代表的な表現者の活動をジャンル横断的な観点から捉え、社会的・芸術史的な観点に基づく調査・分析を通して総合的に検討したという点で、戦後前衛芸術研究に寄与をなしたものとする。また、本研究は戦後の前衛芸術が地方の文化に及ぼした影響を、長期的な視点で追求する前例のない試みでもある。それは、近年多くの議論が重ねられている地域文化の問題について、歴史的な視点からの知見をもたらす意義を持つと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I collected "Tohoku" representations in avant-garde literature and art from the 1960's to the 70's, including Shuji Terayama and Tatsumi HIJIKATA, and analyzed their characteristics with a view to their relationship with cultural and social contexts. In addition, he extensively investigated how Terayama and Hijikata's discourse and practice concerning "Tohoku" affected cultural events in the Tohoku region. Based on the above results, we attempted to comprehensively consider "Tohoku" representations in avant-garde art and their impact on local culture.

研究分野：人文学

キーワード：日本近現代文学 表象文化論 前衛芸術 「東北」表象

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

1960～70年代の日本において諸芸術領域で起こった前衛的動向のなかでは、反近代的な志向のもとで、東北をはじめとした周縁化されてきた地域や、その前近代からの文化に光をあてる傾向が多様に認められる。その代表的な事例として、多様なジャンルにわたる表現活動のなかで「青森」を繰り返し取り上げた寺山修司(1935～1983)と、自らの公演を「東北歌舞伎」と名づけ、東北の文化や生活を舞台に取り入れることを試みた舞踏家・土方巽(1928～1986)が挙げられるだろう。寺山・土方の活動は今日でも多くの人の関心を呼んでおり、彼らの影響を受けて活動する芸術家や、彼らの名を冠した文化行事なども少なくない。だがその一方で、彼らの活動に関する学術的研究は、いまだ十分に蓄積されているとは言いがたい。特に問題と考えられるのは、寺山・土方の「東北」にまつわる言説・実践が、多くの場合「土俗性」・「土着性」への志向として実体的に捉えられ、また作家の実人生と結びつけて理解されてきたことである。このことは、次のような点の等閑視にもつながっている。第一に、寺山にせよ土方にせよ、その芸術的実践は同時代の「東北」をめぐる言説やイメージを受容し、創造的に書き換えることによって為されていたとみられること。また第二に、彼らの芸術的言説・実践が、先行する前衛芸術の文脈との関係の中で、また同時代の多様な領域の芸術家や批評家、学者達との対話や協働のもとで生み出されていたということである。そして、こうした寺山・土方の「東北」にまつわる言説・実践は、東北地方においても、同時代に批判や反発を含めた多様な反響を生み出すとともに、没後から今日に至るまで、地方の文化行事などにも影響を及ぼしているとみられる。こうした、1960～70年代の前衛芸術における「東北」表象の構築のありようと、それが地方にもたらした影響に関する問題は、従来未解明のまま残されてきたといえることができる。

申請者はこれまで、戦前の日本の前衛的な文学(モダニズム文学)における、「東洋」や「伝統」をめぐる言説の形成についての研究に取り組んできたほか、寺山修司のジャンル横断的な活動について研究を行い、また、戦中・戦後の東北における地域文化運動の調査・研究に携わり、「東北」表象の問題について知見を得てきた。本研究は、上記～の研究で得た成果を総合し、それを発展させるものとして、戦後日本における前衛芸術と「東北」表象との関わりについて研究することを着想したものである。

## 2. 研究の目的

本研究が目的としたのは、1960～70年代の前衛芸術における「東北」表象の構築過程およびその特性と、そうした表象が地方にもたらした影響を多面的に解明することである。この目的のために、具体的に次の二点を課題として設定した。第一に、寺山修司・土方巽の「東北」をめぐる言説・芸術的実践を網羅的に収集し、( )同時代にいたるまでの「東北」に関する言説との関係性、( )同時代の芸術家・評論家・学者等との交通やシュルレアリスムをはじめとした前衛芸術の文脈との関わり、という両面から詳細に分析し、その特徴と意義を明らかにすること。第二に、寺山・土方の「東北」をめぐる言説・実践が、同時代の東北地方においてどのように受け止められたのか、また、彼らの没後から今日に至るまでの同地域における芸術家の活動や文化行事にどのように影響をもたらしているのか、広範な調査を通して明らかにすることである。本研究は、1960～70年代日本の前衛芸術について、「東北」表象という視座から、社会的・芸術史的な観点を交えた分析を通してその特性を総合的に検討し、かつ、それが地方の文化にもたらした影響を長期的な視点で多面的に追求するという点で、戦後日本における前衛芸術の可能性・問題性を捉え直す新たな視点を提供するものとなると考えられる。

### 3. 研究の方法

本研究は下記の方法で行われた。

寺山修司・土方巽の文章や発言、また両者に関する論評や周辺の人物による証言を網羅的に調査し、「東北」(ないし東北地方の地名や関連する事物など)が言及される事例を収集する。寺山・土方の文章や対談記録などには、単行本や著作集・全集に未収録のものが多い。これらの文章や発言については、青森県近代文学館や寺山修司記念館などの施設と連携し、その所蔵資料を確認するほか、国立国会図書館等で広く調査を行った。また、公共の図書館に所蔵されない公演パンフレット等の資料については、古書店を通して収集した。

上記( )で収集された寺山・土方らの言説について、(a)近代における「東北」をめぐる諸言説、(b)同時代の文学者・芸術家・批評家等の言説や、前衛芸術の文脈との関連を視野に入れて、内容の分析を行う。なお、(a)近代の「東北」をめぐる言説については従来の研究成果を参照したほか、「恐山」の観光化のありようなど、同時期の新聞や雑誌メディア(総合誌および美術雑誌、文芸誌、旅行雑誌など)等の「東北」言説について調査を行った。

寺山および土方の「東北」にまつわる代表的な作品や公演について分析を行うとともに、上記( )( )の調査・検討結果を踏まえながら、その特性と意義について検討を行う。

寺山・土方の没後から今日までの、東北地方における両者の影響を受けた文化行事のありようについて調査し、両者の「東北」にまつわる言説・実践が地方においてどのように受容されているのか検討する。

### 4. 研究成果

#### (1) 調査と分析

各年度の実施計画に基づき、下記の研究成果を得た。

第一に、国立国会図書館、三沢市寺山修司記念館、青森県立図書館、早稲田大学演劇博物館、土方巽文庫「秋田」等の施設における文献調査、また古書店を通じた文献の購入を通して、寺山修司・土方巽の単行本や著作集・全集に未収録の作品・発言の確認と、1960～70年代の文学・芸術言説における「東北」表象の事例の収集を行った。特に、「恐山」ブームを含めた戦後のツーリズムと文学・芸術との関係、前衛芸術における民俗学的言説の受容という二つの問題に焦点を据えて、幅広い文献の調査、言説の収集および分析に取り組んだ。

また、三沢市寺山修司記念館では、寺山が設立した「演劇実験室・天井桟敷」の演劇台本について網羅的な調査を行い、その多くに、活字発表された戯曲との大きな差異がみられることを確認した。その成果の一端は論文に示したほか、今後台本のさらなる分析と合わせて、順次公表を行う予定である。

第二に、1960～70年代の前衛的な文学・芸術作品における「東北」の表現について、同時代の言説と芸術史的な文脈の双方を視野に入れて分析を行った。特に中心的な分析対象としたのは、寺山修司の初期の短歌・戯曲・ラジオドラマと、土方巽の『病める舞姫』である(後者についてはいまだ検討の途上にあり、その分析結果は今後発表を行う予定である)。また、当初の計画から視野を広げ、戦前から活動していたモダニスト作家・今官一の高度経済成長期における「津軽」の表象に注目し、テキストの分析を行った。

第三に、東北地方における寺山修司・土方巽に関連する行事について、実際に参加して状況の把握に努め(幻想市街劇「田園に死す」(青森県三沢市、2017年8月6日)、「鎌鼬の里芸術祭2018」(秋田県羽後町、2018年9月16～17日)など)、関係者への聞き取りと、関連する資料の収集・分析を行った。

## (2) 成果発表

論文 「どこに行っても恐山はある」 一九六〇年代の文学における「恐山ブーム」と寺山修司」では、1960年代における「恐山」ブームの状況と、文学における「恐山」をめぐる言説・表象との関係について概観するとともに、寺山における「恐山」表象について、ラジオドラマ「恐山」および短歌「恐山」を中心として検討を行い、その特異性と意義について考察した。なお、これは学会発表に基づき、加筆訂正を行ったものである。

論文 「最後の仮面は、いつでも笑っている」 寺山修司『毛皮のマリー』(天井棧敷公演台本版)の射程」では、三沢市寺山修司記念館の調査をふまえ、流布版の台本とは大きく異なる内容を持つバージョンの公演台本をはじめで紹介し、その実験性と意義について詳細な分析を行った。

学会発表 「今官一、場外れ のモダニストの射程 『巨いなる樹々の落葉』を中心に」では、今官一の文学におけるモダニズム的な方法について概観するとともに、特にその「アイヌ」に関する小説の分析を行った。あわせて、戦後における今の「津軽」表象の問題についても論じた。なお、この発表に基づいた論文が、図書 に収録される予定である。

そのほか、戦後の旅行メディアと地方表象との関連について、「恐山」ブームや「ディスカバー・ジャパン」の動向も含めて論じた学会発表 「趣味の旅行」、その多様性と葛藤」や、広義の文化表象の翻訳・拡散に関わる研究である論文 「旅行」する言葉、「山歩き」する身体 川端康成『雪国』論序説」や学会発表 「箱」の翻訳 村上春樹におけるハードボイルドの方法」、また、日本における前衛的な文学表現の成立と翻訳との関係性を追究した論文 「翻訳と(しての)モダニズム 生田長江/横光利一の交差をめぐって」なども、本課題に関連する業績と位置づけられる。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計5件)

仁平政人、「どこに行っても恐山はある」 一九六〇年代の文学における「恐山ブーム」と寺山修司、寺山修司研究、査読無、2019、11号、pp.175 - 193

仁平政人、翻訳と(しての)モダニズム 生田長江/横光利一の交差をめぐって、文藝空間、査読無、2018、11号、pp.2 - 16

仁平政人、「旅行」する言葉、「山歩き」する身体 川端康成『雪国』論序説、日本文学、査読有、2017、66巻、6号、pp.39 - 50

仁平政人、「最後の仮面は、いつでも笑っている」 寺山修司『毛皮のマリー』(天井棧敷公演台本版)の射程、郷土作家研究、査読無、2018、38号、pp.50 - 75

仁平政人、「惜別」と『大魯迅全集』 方法としての「孤独者」、太宰治研究、査読無、2017、25号、155 - 164

### 〔学会発表〕(計5件)

仁平政人、今官一、場外れ のモダニストの射程 『巨いなる樹々の落葉』を中心に、日本近代文学会北海道東北合同研究集会、2018年

仁平政人、「どこに行っても恐山はある」 一九六〇年代の文学における「恐山ブーム」と寺山修司、日本文芸研究会第70回研究発表大会、2018年

仁平政人、「趣味の旅行」、その多様性と葛藤、日本比較文学会東北支部第17回比較文学研究会、2018年

仁平政人、「箱」の翻訳 村上春樹における ハードボイルド の方法 、第6回村上春樹  
国際シンポジウム、2017年

仁平政人、文化翻訳としての「象徴主義」 堀まどか氏「野口米次郎の象徴主義」を中心  
に 、日本比較文学会東北支部第17回比較文学研究会、2017年

〔図書〕(計1件)

仁平政人 他、弘前大学出版会、青森の文学世界 北の文脈 を読み直す 、印刷中

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。